



月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

92・8・18

3543

No.

8・6ヒロシマ 8・9ナガサキに立つ

二度と侵略の銃をとるな

今年の八・六ヒロシマの闘争は、PKOのカンボジア派兵、新たな侵略戦争と対決する反戦闘争の爆発をかちとる第一歩として圧倒的にかちとられました。

動労千葉代表団は、前夜に交流センター、関東ブロックの仲間達と東京からバスで出発、かなりの強行路線だが元気に広島に到着。

八・六は、四つの集会・闘争に参加しました。

始めに、中国電力本店前における電産中国の反原発の座りこみへの支援・連帯。次は、「八・六ヒロシマ全国労働者集会」へ。これは、中四国の交流センターの仲間達が準備した集会で、大成功を収めた。

出席者・発言者全員に派兵阻止の決意がみなぎっており、夏・秋の闘いの中から交流センターの拡大をも闘いすることを誓った。

（労働者集会）



三つめは、平和記念公園において、政府によるペテンの平和記念式典を弾劾し、真の反戦・反核を闘う「ヒロシマアッピール」を發し、気合いの入ったデモを貫徹しました。

夜は、被爆四七周年、「ヒロシマ反戦全国集会」への参加でした。

今回の闘争の大事な点は、被爆国・被害者という立場だけでなく、侵略戦争の結果としてのヒロシマ・ナガサキがあったことをしっかりと確認し、一度目は過ちでも二度めは裏切りだ、ということを自ら確認したことではないかとおもいます。

二度と侵略の銃をとらない。皇軍復活・PKOカンボジア出兵阻止にたちあがる決意をうち固めてきました。

「八・六」の闘いをバネに、夏・秋の反戦闘争の前進のために共にガンバリ！

広島闘争派遣団・S君

ナガサキ 自衛隊 派兵阻止

反戦運動を考えると、八・六ヒロシマ、八・九ナガサキを抜きにしてはかんがえられない。そうした考えから、今回ナガサキに参加してきた。

世界で唯一の被爆地ヒロシマ・ナガサキの人々は、戦後・現在そして、これからもズット戦争の悲惨さを忘れることはないと思うし、それをたえず共用しなければならぬと思う。

自衛隊が「PKO」という名のもとに、カンボジアに出兵しようとしている。「PKOは戦争じゃない。だから自衛隊を出してもいい」たかひに生かしていく決意である。トンデモないことだ。

ヒロシマ・ナガサキの怒り、祈りを踏みじり再び侵略に乗り出すことなどどうして認められようか。

しかし、多くの人々の中に反戦の意識は生きつづいていることも事実である。ナガサキに参加し、そのことが実感できた。

われわれには、理性がある。今こそその「理性」を働かせて「反戦・反核」の声を大にしなければならぬ。

ナガサキで得たものを今後のたたかひに生かしていく決意である。

長崎闘争派遣団・G君